

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成27年7月11日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4694300015
法人名	株式会社 スローライフ
事業所名	グループホーム 絆
所在地	鹿児島県南九州市川辺町高田1238-4 電話 0993-58-3838
自己評価作成日	平成27年6月1日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/Top.do?PCD=46
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人自立支援センターかごしま 福祉サービス評価機構
所在地	鹿児島県鹿児島市星ヶ峯四丁目2番6号
訪問調査日	平成27年6月23日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

今年の5月で開設8年目を迎え、最初の頃よりも外出が少なくなっているか、利用者の気持ちに寄り添ったケアを行っているか、利用者が自分の思いを出せているか、自問自答するところですが、「食」の楽しみを第一に、今年は外食で「選んで食べていいよ」と選択してもらおうと、ラーメン、焼肉などと答えてくださり、ガッツリと食べて「うんまかった」と帰ってこられました。自分で自分の食べたいものを選び食することができることについて一人の人間としての大事なその人らしさであると思うことでした

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- ・当ホームは自治会に加入し、利用者は散歩や小学校の運動会・地域の敬老会に参加している。小学生の訪問を受けたり、花見会等の交流をしている。管理者は地域で介護について相談を受けている。利用者と一緒に縫った雑巾を学校に贈呈する等、地域との交流を大切にしている。
- ・運営推進会議を定期的開催し、夜間を想定した消防訓練を行ったこともある。
- ・利用者との信頼関係を結ぶためのアセスメントを細かく把握し、コミュニケーションでいい関係作りと安心した生活ができるよう取り組んでいる。
- ・旬の食材や季節感のある献立で利用者が食事を楽しみになるように支援している。2ヶ月に1回は外食に出かけ、利用者は好みのものを注文して楽しんでいる。
- ・ゲートボールの会場が近くにあり、散歩をしていると話しかけてこられたり、一緒にお茶を飲みながら話したりして、馴染みの関係が継続できている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	以前、外部評価において指摘を受けた地域との関わりを含めた理念を職員全員で意見を集約して作成、毎朝の申し送り時、職員全員で唱和して確認、実践に努めている。	理念は玄関とホールに掲げ、職員や利用者・家族に分かるようにしている。毎朝の申し送り時に唱和し、勉強会で理念について理解を深め、日々の支援に活かしている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の自治会に加入、地域との花見会、文化祭への作品の展示、敬老会への参加などの交流をできる範囲で行っている。	自治会に加入し音楽教室の開催や土砂災害などの件で話し合いをしている。利用者は、散歩や小学校の運動会・地域の敬老会に参加している。小学生の訪問を受けたり、花見会等の交流をして、地域で介護について相談を行っている。利用者と一緒に縫った雑巾を学校に贈呈する等、地域との交流を大切にしている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	小学生の体験学習は毎年、1,2年生を受け入れており、子供たちが楽しみにしているとの意見を、先生からいただく。地域で介護の相談は常時、受けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議において報告、相談を行いアドバイスを活かして日々の運営に活かしているが、地域の皆様の協力がありがたく思い感謝している。</p>	<p>会議は定期的開催している。事業所の活動報告や利用者の状況・外部評価の結果報告等を行い、出された意見などをサービス向上に活かしている。運営推進会議で夜間を想定した消防訓練を行ったこともある。</p>	
5	4	<p>○市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。</p>	<p>毎回の運営推進会議により、担当者を知ることで相談事連絡が気軽にできている。</p>	<p>町の担当者とは直接出向いて相談し助言をもらったり、情報提供を得ている。電話やメールにて研修等の連絡を受けたり、運営推進会議に必ず出席してもらうので、事業所の状況や課題など把握しており、意見や最新情報を知ることができ、協力関係ができている。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>全く身体拘束を行っていない状態ではないが、玄関施錠、部屋の鍵等、掛ける際は同意書をお願いしている。</p>	<p>身体拘束のないケアに取り組んでいるが、利用者の状態により申し送りやケアの中で話し合いをして安全のためやむを得ず鍵を玄関と部屋にしなければならぬ時がある。同意書を得ている。信頼関係を結び安心できる生活の取り組みを職員で話し合っ、現在は穏やかで落ち着いた時間が多くなってきている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>高齢者虐待防止法に関する研修を行い虐待防止に努めている。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	<p>権利擁護に関する制度を理解し必要性があるときは活用できるよう支援する。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>契約の締結解約改定時は内容の確認を行い疑問点を伺い十分な説明を行っている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>昨年より年一回の食事会時に運営推進会議を開催し家族の意見を伺っているが面会時、病院受診時いろいろな機会に意見を聞き運営に反映させている。</p>	<p>利用者からは、日常の生活の中で思いを聞いている。家族からは食事会を開催した時や面会・医療機関への受診・電話連絡等の時に意見や要望を聞くように努めている。ホームでの生活状況を家族に伝えるように、毎月便りを郵送し、そのことから意見等を聞き、運営に活かすように取り組んでいる。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	月1回の定例会、業務改善会議時、申し送り時等の中で出た提案、意見はできることは運営に反映させるように努めている。	毎月の定例会や年4回の業務改善会議の機会に意見や提案を聞いている。申し送りや会議等で意見が出やすいように、職員との食事会を設けたりコミュニケーションをはかり、日常の業務の中でも気軽に意見が言えるようにして、可能な限り運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	個々の職員の状況を踏まえ全員が働きやすく向上心を持って働けるよう環境を整えるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々の職員が施設内外の研修を受けられる機会を確保できるよう努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のグループホーム協議会に加入し、勉強会、交流会に参加してサービス向上の取り組みをしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>入所前には必ず自宅訪問、生活状況を把握、本人の要望を聞き安心できる関係作りに努めている。</p>		
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>初期の時期には家族へ連絡を密に行い情報、要望にもれがないよう関係作りに努める。</p>		
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>本人、家族の要望から今必要な支援を見極め希望に沿ったサービスができるよう努めている。</p>		
18		<p>○本人と共に過ごし支え合う関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>生活全般においてすべてのことを助け合い利用者のできることはお願いしている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		<p>○本人と共に支え合う家族との関係</p> <p>職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>ご本人の毎日の生活の様子を絆便りにて月一回お知らせしている。また、細かい体調変化、夜間帯の変化をお知らせして情報を共有している。</p>		
20	8	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>利用者のアセスメント、情報をもとに美容院、買い物など行けるよう支援している。</p>	<p>利用者は近隣の方が多く地域の敬老会や運動会等に参加している。近くの馴染みの大型スーパーマーケットや美容院に出かけている。散歩中に友人や知人と会って話したり、ホームに面会に来てお茶を飲みながら楽しく過ごしている。馴染みの関係が継続するように取り組んでいる。</p>	
21		<p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>利用者が孤立しないよう関係性を常に把握してケース記録に書き残すことにより全スタッフが共有して支援に努めている。</p>		
22		<p>○関係を断ち切らない取り組み</p> <p>サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>契約終了しても相談に応じること説明しており入院されても相談、支援に努め利用者、家族が孤立しないよう努めている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	生活全般の中で本人の発した言葉を重要と捉え全スタッフで共有している。	入居時に利用者の思いや希望などを聞いたり、生活する中で、本人の気持ちの確認等の把握に努めている。把握が困難な場合は、雰囲気を感じたり生活歴の中でとらえ家族からの意見も聞き、本人中心の支援を行っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時全スタッフでアセスメントを回覧し、経過の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	どんな生活をしたいのか又、有する力の現状把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	関係者で話し合い立案したケアプランに沿ってケアを行い、3か月に1回のモニタリングにより確認を行っている。	入居時に利用者や家族・必要な関係者と話し合いケアプランを作成している。3ヶ月毎にモニタリングで見直しをしている。変化時は再度アセスメントしケアプランを修正している。生活が見え、よりよく暮らすために記録を工夫している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々のケース記録を重要と捉え全スタッフで情報共有、現場のケア、ケアプランの作成に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者、家族の希望を真摯に捉えできるだけ限り柔軟な支援に取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域との関係は欠かすことができず地域社会との豊かな関係を支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者、家族の希望をもとに適切な医療を受けられるよう支援するとともにできる限り家族にも同行していただいている。	利用者や家族の希望するかかりつけ医の受診を支援している。歯科や専門医も適切な治療が受けられるようにしている。基本的に医師と本人・家族が話ができるように家族支援に取り組んでいる。職員支援の場合は、家族に電話で報告している。日常的に看護師が健康管理をしている。必要時訪問診療も受けている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中であらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	施設に看護職員が常勤しており健康管理、医療的な相談を行い指示を仰いでいる。		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	入院時、入院中の病院からの病状説明時はできる限り同行して立ち会い情報の共有に努めている。		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	入居時に説明している。中途でも機会があるごとに話し合い支援に取り組んでいる。	重度化や終末期のあり方について、入居時に方針を説明している。看取りの指針も早めに家族や医療機関と連携をとり段階的に細かく説明をしている。利用者の状態に応じ、その都度家族や医師と話し合い、ホームでできるところまで職員の配置状況で対応をしている。	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	定期的に事故発生時、急変時の対応の研修、訓練を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>新しいスタッフが入りまだ全員が絆の防災計画を身に着けたとは言えないのでこれから研修、避難訓練を行い周知をしていきたい。</p>	<p>消防署の協力を得て年に2回昼夜間想定で避難訓練をしている。地域消防分団や地域住民の協力体制も築いている。緊急連絡通報装置に地域住民2名が登録している。消火器具の点検も定期的に行い災害時の備蓄も確保している。避難経路の確認や利用者と共に避難する等、水害訓練に力を入れている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	<p>○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保</p> <p>一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている</p>	事例検討や研修により、自分を振り返り理解を深めている。	研修や勉強会を行い事例を具体的に出し、学習している。利用者の部屋に入る時は許可を得て入室している。トイレや入浴時は戸を閉めプライバシーに配慮している。排泄は言葉かけに注意し、さりげない対応をしている。入浴を拒否した場合も本人の意思を大切にしている。	
37		<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている</p>	本人の思いや希望が出せる環境作り、また、本人の言葉から読み取れるよう努めている。		
38		<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	ゆっくりと流れる一日を心がけ本人の希望に沿って生活できるよう支援している。		
39		<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している</p>	買い物に付き添い衣類を選ぶ支援を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>食の楽しみを重要と捉え季節感のある食卓をみんなで囲めるよう準備、片付けまで行っている。</p>	<p>旬の食材や季節感のある献立で利用者が食事を楽しみになるように支援している。2ヶ月に1回は外食に出かけ、利用者は好みのものを注文している。個々の力量に応じて職員と買い物に行ったり食事の準備・後かたづけをしている。子ども達と一緒にクッキーやホットケーキを作り、食べる機会もある。</p>	
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>一人一人の毎食の食事摂取量を記録しているが、無理強いしないで確保できるよう支援している。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>それぞれの状態に応じた口腔ケアの習慣づけを支援している。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている</p>	<p>排泄チェック表を記入し利用者の状態に合わせた支援を行っている。</p>	<p>排泄記録を基に個別に排泄パターンを把握し排泄チェック表に沿って、トイレ誘導を行い、自立支援に努めている。リハビリパンツから布パンツに移行した事例もある。排泄の失敗を職員が早く気づくように対応している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	看護師の指導により、排泄記録に基づいて水分補給、運動への意識を持ち便秘予防に全員で取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	入浴日は設定してあるがいつでも入浴できるよう環境を整えて希望により入浴できるよう支援している。	入浴は週に3回設定しているが、希望があれば、いつでも入浴できる準備ができています。あかすりタオルの代わりにガーゼを使用し、皮膚の乾燥を防ぐようにしています。入浴をいやがる利用者には、シャワー浴に変えることもある。外出して足湯に行ったり、好みの入浴剤を入れたりして工夫しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者が安心して休息、安眠できるように環境を作り支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者が服薬している内容の一覧表のファイルを共有して理解して支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の利用者が施設の中で役割を持って生活できるよう生活を楽しめるようできる限りの支援を行っている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	施設内だけの生活にならないように心掛け家族との外出等もできるようできる限りの支援を行っている。	日常的に天気の良い日は、事業所周辺の散歩に出かけている。地域の行事に参加したり、菜園畑で仕事をしたりしている。ドライブをしたり、地域で行われる行事の見物や花見など機会あるごとに外出をしている。家族と受診の帰りに外食をする等、家族の協力を得ながら、希望に沿った支援ができるようにしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族の了解を頂いて外出時の買い物等支払を本人にお任せしている方もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	遠方の親戚家族との手紙、電話のやりとり等できる限り支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	常に施設内の環境保全に努め居心地良く過ごせるよう心掛けている。	共用空間は、木造造りで木のあたたか味のある構造になっている。広くて明るく窓から自然の風が入り不快な刺激物や音も調整してある。玄関を入ると、ホール全体が見え、ホールにはアジサイのちぎり絵が飾ってある。長いソファに寝ている利用者もいる。ウッドデッキにホールから直接出られるようになっている。利用者は、居心地よく過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者同士のトラブルや言い合いがあるときは椅子、テーブルの配置換えを行い思い思いに過ごせる環境に工夫している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッド、タンスは備え付けてあるが本人の私物の持ち込みも安全性があれば持ち込み可能である。	居室は畳の部屋にベッドとタンスが設置してある。自宅から持ち込んだ家族の写真や読書の本・おしゃべりするお人形等が飾られて、本人が安心して居心地よく生活できるようになっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	そのときどきの利用者の症状に沿って常に安全安心な環境作りに工夫している。		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
		○	2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30,31)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ全ての家族と
		○	2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
		○	2 数日に1回程度ある
			3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
		○	2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない